

## 令和2年度 山梨県果樹試験場試験研究課題評価結果

### 1 評価委員名

中村 ゆり (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
果樹茶業研究部門 研究推進部長)

秋山 仙一 (山梨県果樹園芸会 会長)

山口 正己 (東京農業大学農学部 客員教授)

奥田 徹 (山梨大学 生命環境学部長)

手塚 英男 (南アルプス市農業協同組合 営農指導部次長)

### 2 評価実施日

第1回課題評価会議 (事前・中間) 令和2年8月21日

第2回課題評価会議 (中間・事後;WEB会議) 令和3年1月22日

### 3 評価課題

#### (1) 事前評価課題

- ア) 大課題名: 生食用ブドウ新品種の育成 (H16年～)  
小課題名: ブドウの早期育成に向けた育種手法の確立  
(成長戦略研究: R3～5)
- イ) 大課題名: ブドウ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S59～ )  
小課題名: ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第6次)  
(R3～7)
- ウ) 大課題名: モモ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S56～ )  
小課題名: モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第6次)  
(R3～7)
- エ) 大課題名: 新たな肉質のモモ「夢桃香 (甲斐トウ果 17)」の特性を活かした  
省力栽培技術の確立 (成長戦略研究: R3～5)  
小課題名: 品種特性を活かした省力栽培技術の開発 (R3～5)  
小課題名: これまでに開発した省力化・高付加価値化技術の適応性検討 (R3～5)  
小課題名: 省力収穫技術に適した新たな仕立て方法の開発 (幼木期) (R4～5)

#### (2) 中間評価課題

- ア) 大課題名: ブドウ「シャインマスカット」の短梢剪定栽培における  
多収・早期成園化技術の確立 (重点化研究: R1～3)  
小課題名: 高品質で多収が可能な栽培技術の確立 (R1～3)  
小課題名: 早期成園化が可能な栽培技術の確立 (R1～3)
- イ) 大課題名: モモ枯死症を軽減する胴枯病対策技術の確立  
(重点化研究: R1～3)  
小課題名: 胴枯病菌の感染を低減する管理技術の確立 (R1～3)  
小課題名: 胴枯病防除対策の確立 (R1～3)  
小課題名: 枯死症の総合対策実証 (R2～3)

ウ) 大課題名：果樹園の土壌管理による果実安定生産技術の確立  
(重点化研究：H30～R4)

小課題名：生理障害発生園の土壌環境実態把握 (H30～R2)

小課題名：土壌管理等による果実生理障害の発生抑制 (R2～4)

エ) 大課題名：核果類新品種の育成 (S63～ )

小課題名：モモ新品種の育成 (S63～ )

小課題名：スモモ新品種の育成 (S63～ )

小課題名：オウトウ新品種の育成 (S63～ )

小課題名：系統適応性検定試験 (S56～ )

オ) 大課題名：スモモ及びオウトウの優良品種選抜と栽培技術の確立 (S51～ )

小課題名：スモモ・オウトウの優良品種の特性調査 (第6次) (H30～R4)

### (3) 事後評価課題

ア) 大課題名：ブドウ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S59～ )

小課題名：ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第5次) (H28～R2)

イ) 大課題名：モモ優良品種選抜と栽培技術の確立 (S56～ )

小課題名：モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第5次) (H28～R2)

## 4 具体的な評価点、評価所見

(評価点の目安)

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

## 事前評価報告書

令和2年 8月31日(月)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	ブドウの早期育成に向けた育種手法の確立	
研究期間	R3年度～R5年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.8
2	研究内容の新規性	4.0
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.4
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.3
[評価所見] 各委員から出された意見は以下のとおりであった。 山梨のオリジナル品種として、黒ブドウで皮ごと食べられる品種開発に対する生産現場の要望は極めて強く、研究の必要性は極めて高い。試験計画を円滑に進めるためには、さらなる人員配置が必要である。		

## 事前評価報告書

令和2年 8月31日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第6次)	
研究期間	R3年度～R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	3.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.1
[評価所見] 各委員から出された意見は以下のとおりであった。 対象となる品種はいずれも山梨県で今後普及される可能性を持つ新品種であり、その特性把握と栽培技術の確立のための比較試験は、生産現場からの要望が高い重要な研究課題である。ある程度のデータが得られたら、試験場だけでなく環境の異なる地域等における現地試験も必要である。		

## 事前評価報告書

令和2年 8月31日(月)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立(第6次)	
研究期間	R3年度～R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	3.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.1
[評価所見] 各委員から出された意見は以下のとおりであった。 対象となる品種はいずれも山梨県で今後普及される可能性を持つ新品種であり、その特性把握と栽培技術の確立のための比較試験は、生産現場からの要望が高い重要な研究課題である。今回は、低低温要求性、硬肉性など新規形質を備えた品種も対象とされていることから、新たな栽培・出荷体制構築の端緒となる可能性も高い。ある程度のデータが得られたら、試験場だけでなく環境の異なる地域での現地試験も必要である。		

## 事前評価報告書

令和2年 8月31日(月)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	新たな肉質のモモ「夢桃香(甲斐トウ果17)」の特性を活かした省力栽培技術の確立	
研究期間	R3年度～R5年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.8
2	研究内容の新規性	4.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.8
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.2
	総合評点	4.4
[評価所見] 各委員から出された意見は以下のとおりであった。 新たな肉質を持つモモ「夢桃香」は、日持ち性に欠ける従来のモモ品種の課題を大幅に改善する可能性を有する。この性質を活かした収穫期の省力化技術開発によって規模拡大等も図れるものと期待される。さらには貯蔵や流通の技術開発も必要であるので、そのためには追加の人員配置や予算化が望ましい。		

## 中間評価報告書

令和2年 8月31日(月)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	ブドウ「シャインマスカット」の短梢剪定栽培における多収・早期成園化技術の確立	
研究期間	R1年度～R3年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度	4.4
[評価所見] 各委員から出された意見は以下のとおりであった。 研究については計画通り順調に進んでいる。台木品種の違いの影響については、すでに成果情報として発信されており、副梢を利用した樹冠拡大方法等、普及が見込まれる新たな技術もできつつある。今後は、多収に合わせた施肥技術等の開発や、技術普及の準備として台木グロワールや188-08などの増殖が必要である。		

## 中間評価報告書

令和2年 8月31日(月)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	モモ枯死障害を軽減する胴枯病対策技術の確立	
研究期間	R1年度～R3年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度	4.0
[評価所見] 各委員から出された意見は以下のとおりであった。 多くの要因がかかわると考えられるモモ枯死障害の発生において、胴枯病が重要な役割を演じていること、胴枯病発生の抑制法などが明らかにされつつあり、研究は計画通り進捗している。対策の普及が望まれる。		



## 中間評価報告書

令和2年 8月31日(月)

研究種別	重点化研究	
研究課題名	果樹園の土壌管理による果実安定生産技術の確立	
研究期間	H30年度～R4年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度	4.0
[評価所見] 各委員から出された意見は以下のとおりであった。 ブドウ、モモの生産現場における土壌水分動態と生理障害発生との関係が明らかにされつつあり、計画どおりに進行している。今後は具体的な対策技術の開発を進めていただきたい。		

研究種別	県単独研究	
研究課題名	核果類新品種の育成(S63～ )	
研究期間	昭和63年度～	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.6
<p>外部評価会議構成員5名(A～E)の評価所見は以下のとおりである。</p> <p>A: 目標達成に向け、計画通り進行している。「甲斐トウ果17」については収穫基準や収穫期の予測技術の開発も行うなど、計画以上の進捗が見られている。また、紋羽病抵抗性台木育成など、新たな試みも開始しており、成果が期待できる。</p> <p>B: 研究成果が得られている。モモでは「夢桃香」のような硬肉品種を期待する。</p> <p>C: 長いデータの蓄積があり、良い品種もできており、評価できる。収穫期の予想は有用性が高い成果である。栽培地の積算平均気温や積算有効気温などを簡単に算出できるWebページを作成できれば、農家にとって有用なツールになる。</p> <p>D: モモでは、「甲斐トウ果17」の剥皮性や日持ち性の評価が行われるとともに、これに続く優良個体の選抜が進んでいる。オウトウ育種では、日持ち性に優れ、早生の優良個体が選抜されつつあり、全体に新品種育成の試験が極めて順調に進んでいると評価される。また、紋羽病抵抗性の台木育成についても新たな取り組みが行われている。</p> <p>E: 長期にわたる試験研究であり、成果が確実に、生産者の収入につながる研究となっている。温暖化に対応した成果が得られるよう進めてほしい。</p>		

研究種別	県単独研究	
研究課題名	スモモ、オウトウの優良品種の特性調査(第6次)	
研究期間	平成30年度～令和4年	
	評価項目	平均点
1	研究計画の進捗度	4.2
<p>外部評価会議構成員5名(A～E)の評価所見は以下のとおりである。</p> <p>A: 計画通り進捗している。生産者への情報提供として、日持ち性評価も加えてほしい。</p> <p>B: 研究成果が得られている。オウトウでは温暖化により収穫時の果実の軟化が見受けられる。高砂の時期の果肉が硬く大玉の品種を期待する。皇寿(スモモ)については食味重視も必要だが日持ち性も考慮した収穫期の検討が必要と考える。</p> <p>C: 真面目な取り組みであり、時間もかかるが、重要な課題と考える。果実品質の評価法は、消費者ニーズに合わせて、変えていくことも良いかもしれない。若手の職員なども評価に加わってもらいと、新たな発見がありそうである。</p> <p>D: 近年、民間を中心に新品种の育成・登録が続いており、その特性把握と普及性の評価は主産地の維持には不可欠である。本試験では、いち早く試作が行われ、特性評価が進められ、普及性の判定が行われており、順調に課題が遂行されていると評価される。</p> <p>E: 本試験以外では研究例が少ない。今後、栽培者の指針とするためにも進めて欲しい。</p>		

## 事後評価報告書

果樹試験場 評価委員会 令和3年1月22日(金)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	ブドウ優良品種の特性調査と栽培技術の確立（第5次）	
研究期間	平成28年度 ～ 令和2年度	
		平均点
1	研究目標の達成度	4.4
<p>外部評価会議構成員5名(A～E)の評価所見は以下のとおりである。</p> <p>A: 計画通りに進捗している。着色管理が容易で品質が安定した品種を選抜してほしい。「皮ごと食べやすさ」についてのパネラー調査は取り組みとして評価する。皮ごと食べられないとした要因も抽出できれば、今後の育種にも役に立つのではないかな。</p> <p>B: 研究成果が得られている。皮ごと食べられ食味重視の品種を選抜されたい。</p> <p>C: 世界トップを走る生食用ブドウの良さを伝えることが出来るように、ブランディングも含めて取り組む必要がある。耐病性と高温耐性は、今後重視される観点であるので評価をお願いしたい。</p> <p>D: 赤色品種で特に問題となる着色ムラや食味の安定性などについて特性が明らかにされている。また、植調剤の処理法、カサの種類と効果、簡易雨よけの効果などが明らかにされ、普及の際の有用な知見を提供しており、大きな成果が得られたものと評価される。</p> <p>E: 民間育成品種の不明確であった特性を明らかにした。</p>		

## 事後評価報告書

果樹試験場 評価委員会 令和3年1月22日(金)

研究種別	県単独研究	
研究課題名	モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立（第5次）	
研究期間	平成28年度 ～ 令和2年度	
		平均点
1	研究目標の達成度	4.4
<p>外部評価会議構成員5名(A～E)の評価所見は以下のとおりである。</p> <p>A: 県オリジナル品種である「夢みずき」の生理落果対策は特に重要であり、その指針を示せた点について、評価する。</p> <p>B: 研究成果が得られている。「夢桃香」のような硬肉のモモに期待する。</p> <p>C: 時間がかかる課題であるが、良い成果が出ている。果実品質の評価は難しいが、香りや食感などが非常に重要と考えるので、評価法の確立も必要であるとする。</p> <p>D: 近年、果実が極めて大きいものや日持ち良好なものなどが育成されている。本試験においては、こうした新品種の普及性が検討されており、適切に試験が進められたと評価される。また、「夢みずき」について施設栽培適応性の評価や生理落果抑制技術の検討なども進められるなど、モモ品種の普及に有効な成果をあげたと判断される。</p> <p>E: 民間育成品種の不明確であった特性を明らかにした。</p>		